

MI5 エージェントが死の床でダイアナ妃殺害を認める

【訳者注】先日紹介した“ビルディング7”の、名人芸的解体の CIA 技術者や、ドイツ人記者ウドー・ウルフコッテと同様（彼はしばらく生き延びて、今年1月、予定通り心臓病で死んだ）、これも死を間近に控えての告白である。彼の言うことが全部本当とは限らないが、基本的にはこの通りであろう。英王室についても、想像していた通りの特別の人種（サイコパス）のようである。知られて生かしておけない、その秘密とは、支配層の裏の世界として我々が知っている、あのすべてに関係しているであろう。

Jay Greenberg

June 19, 2017, www.neonnettle.com



死を迎えたイギリスの情報局エージェント **John Hopkins** が、医者からあと数週の命と言われ、一連の驚嘆すべき告白をした。彼はダイアナ妃を殺す使命を負わされていた。

80歳のジョン・ホプキンズは、退職したMI5（米CIAに当たる）の実働員で、これまで連合王国政府の殺し屋として働き、1973年から1999年の間に、23件の暗殺を執行したと言っている。

当時、ホプキンズは38歳のベテランであり、彼の仕事はしばしば、「国家安全保障にとって脅威となる」人物を、暗殺することだけを任務としていたと言っている。

連合王国に勤めていた期間中、彼は、機械エンジニアと弾薬の専門家として、幅広く訓練を

受け、毒や化学物質などによる、非日常的殺人に“精通していた”と言う。

この退役したイギリスの暗殺者は、7名からなる実働チームの1人として働き、彼らがいろんな政治的暗殺を指令されていたのは、彼の言う「MI5があまり外部からの監視なしに活動していた時期」だという。<http://www.neonnettle.com/tags/mi5>

彼の超秘密のチームの犠牲者は、政治家、ジャーナリスト、活動家、団体リーダーなどであった。

ホプキンズ氏は、ダイアナ妃は、彼の殺した唯一の女性であったと言い、こう付け加えた——「彼女は、命令が直接、王室からきた唯一のターゲットだった。」

<http://www.neonnettle.com/tags/royal-family>

“国民のプリンセス”の命を取ることを、どう感じたかと訊かれると、彼は彼女の死については「アンビバレント（相反する）」な感情を抱いたと言い、彼女は「美しく、やさしい感情をもった女性」で、悲劇的に若くして人生を断たれたが、「彼女はまた英王室に危険をもたらす者」でもあったと答え、こう言った——

「英王室は、彼女がチャールズと離婚するつもりでいる証拠をもっていた。」

<http://www.history.com/this-day-in-history/charles-and-diana-divorce>

「彼女は王室の秘密を知りすぎたのだ。彼女はとてつもない怨恨を抱いており、すべての途方もない事実を、一般に公表しようとしていたのだ。」

「私のボスは、彼女は死なねばならないと言った——彼は、フィリップ殿下（エディンバラ公）から直接、命令を受けたのだ。そして我々は、事故に見えるようにやらねばならなかった。」

「私は女を殺したことはなかった——もちろん王妃などは。しかし命令に従った。私はそれを、女王と国家のためにやったのだ。」

この仕事は、バッキンガム宮殿からの厳しいコントロールのもとに、主流メディアの直接の協力を得て進められた、と彼は主張する。

このハイテクの陰謀には、メディアと王宮の協働が必要だった——「彼らのストーリーの辻褄が合うように、すべての者が同じページ上にあるように。この仕事はうまく行った。」

この仕事の共謀者について話しながら、ホプキンズは言った――

「イギリスのジャーナリストは編集者の意向を受け、編集者は“少数政治家”の意向を受け、その者たちはすべて、バッキンガム宮殿の犯罪家族から、ナイト爵を欲しがっているのだ。」

「イギリスには報道の自由というものはない。」

「我々は人を殺しても許された。」

医者たちから、あとわずかししか生きられないと言われた後で、ホプキンズは、最後の時間を自宅で過ごすことを希望した。しかし、このように認めた以上は、逮捕されるか、永遠に黙らされるかを覚悟していると言った。しかし――

「実は、私は大して気にしていない。」

「彼らが私を連行しようとするなら、今となっては、それは私にとって有り難いことだ。」

彼の説明では、万一、調査が始まっても、彼は「とうの昔に死んでいて」、それに、この仕事の記録はごく限られているから、それは「終わることなく」「恐ろしく複雑だ」。そして「ほとんどの私の同僚はすでに死んでいる」と彼は付け足した。

ホプキンズは、ダイアナ妃殺害の首謀者はフィリップ殿下だと言った。しかし「もちろん、彼はどんなことでも、決して罪を問われることはない」と言った。

[https://en.wikipedia.org/wiki/Oath_of_Allegiance_\(United_Kingdom\)](https://en.wikipedia.org/wiki/Oath_of_Allegiance_(United_Kingdom))

「もしフィリップ殿下が、精神分析医による分析を受けるなら、きっと彼はサイコパスと診断されると思う。彼は、あの暗い3つの特質すべてをもっている。」(サイコパス、ナルシシズム、マキアベリズム?)

万一、この事件が調査されるようなことがあれば、最も重要な証人は、ホプキンズ氏のボスであろうが、彼は「2000年代初め」に心臓発作で死んだようだ。

ホプキンズが、なぜ、この謀略をもっと早く暴露しなかったのか、あるいは、その時、仕事

を拒否しなかったのかと問われると、彼はこう説明した――

「MI 5 のエージェントは、王室に忠誠を誓っているのだ。」

[https://en.wikipedia.org/wiki/Oath_of_Allegiance_\(United_Kingdom\)](https://en.wikipedia.org/wiki/Oath_of_Allegiance_(United_Kingdom))

「英王室の問題になると、我々は公平という態度は取れない。」

「私はよくても、反逆罪に問われ、最悪の場合には、フィリップが私を恐ろしい拷問にかけて殺しただろうね。」